

令和7年度 祥水園 法人事業計画（案）

法人理念

「してやるのではなくさせていただくのです」（宗祖お言葉 18 番）

法人経営指針

- ・ 共生 我々は社会・地域・ご利用者と共生する喜びと感動を創作する
- ・ 貢献 我々は誠実・努力・謙虚をモットーに絶えず自己研鑽に励み、社会・地域に貢献する
- ・ 誇りと幸福 我々は仕事への誇りと幸福を追求し、働き甲斐のある職場作りを目指す

・ 近況報告

従来より懸念されていた 2025 年問題がいよいよと現実となる。団塊の人々が後期高齢者となり、国民の 4 分の一が後期高齢者となる。社会保障費の負担は一層大きくなり、少子高齢社会の一層の加速により、労働者の不足、医療、福祉の需要はあってもその器自体が不足し、どんどんと縮小されていくだろう。海外に頼っていた介護の人材も最近では減少していることから、日本の介護保険制度すら危うくなると思われる。

当園においても来年度、建物や機械の老朽化、車両の買い替えなど多くの出費が見込まれる。食品や燃料費の高騰も見込まれることから、非常に厳しい経営体制を強いられることは必至である。今後は成長ではなく現状維持の時代に入っていくことになるため、一層の経費節減に努めていきたい。

今年度下記の事業活動については、懸案の有料老人ホーム星街の稼働について五條市の地籍調査が始まり来年度 4 月より予算が計上されることから何らかの動きがあると見込まれる。また、阪合部 CLASS の建て替えがいよいよとはじまり来秋には OPEN の運びとなる。双方ともに健全運営になるように努めていきたい。

事業活動指針

- ① 法人健全経営
- ② 法人理念・組織の再認識と再構築
- ③ 公益事業（FM 五條・野原ダイニング・Miracle・JADE）の健全経営
- ④ 介護技術研修「I wish」や学校訪問・講義提供による人材確保
- ⑤ 有料老人ホーム「星街」の早期操業
- ⑥ 阪合部 CLASS の建て替えと運営
- ⑦ 徹底的な経費節減

令和7年度 特別養護老人ホーム水杜・水がたり 事業計画【案】

① ご利用者が輝ける施設を創る。

- ・ご利用者について職員が知っていることやご家族へ聞いてみたいことをまとめたアセスメントシートを再構築し、ケアの見直しを行う
- ・アセスメントの継続的な更新を行い、情報を積み上げられるようにする
- ・ご利用者の希望を各フロア月1名以上叶えるための実践を行い、次の目標を見つける
- ・経験したエピソードを発信する場を創出し、実践報告を行えるようになる

② お年寄りの希望を叶えて、サービス向上へ繋げる

- ・外部事業所とともに地域にあるニーズを把握し、サービスの質の向上へ繋げる
- ・2か月に1回程度外部事業所へ向けた実践報告を行い、理解の促進を図る
- ・外部事業所からの紹介率を上げて稼働率の維持、向上へと繋げていく
- ・法人内ケアマネージャーとの定期的な情報交換会を実施する

③ 子どもたちとの交流の機会の創出と中長期的な人材確保を行う

- ・月1回程度子どもたちとご利用者が交流できる機会の創出する
- ・夏休みに子どもたちとのイベントを企画する
- ・小中学生向けの職場体験および学生インターンの受け入れ体制の整備を行う
- ・施設見学及びイベントを通じて、ご家族以外で150名以上来園者を生む

④ 近隣地域との顔見知り関係性を創る

- ・近隣のイベントの情報収集を行い、顔の見える関係性を構築していく
- ・ご利用者とともに行う地域貢献活動へ積極的に参加する
- ・地域にて意見交換会を実施し、祥水園を知って頂く機会を創出する。

⑤ 地域の中に協働できる応援を創る

- ・企業や公民館とのつながりを構築し、地域課題について考える機会を創る
- ・地域にある介護や福祉に対する考え方を理解し、今後の介護のあり方を地域住民と共に考える機会を創る
- ・今ある社会資源を活用し、ご利用者の暮らしを豊かにする協力体制を創る

令和7年度 祥水園 特養事務所事業計画（案）

法人理念

「してやるのではなくさせていただくのです」（宗祖お言葉18番）

法人経営指針

- ・共生 我々は社会・地域・ご利用者と共生する喜びと感動を創作する
- ・貢献 我々は誠実・努力・謙虚をモットーに絶えず自己研鑽に励み、
社会・地域に貢献する
- ・誇りと幸福 我々は仕事への誇りと幸福を追求し、働き甲斐のある職場作りを目指す

健全経営

1. 月次資料を作成し、上長に報告と提言する
2. 補助金、助成金を活用し収益を確保する

経費削減

1. 無理・無駄に掛かるコストを見直し削減を行う
2. 作業工程を見直し時間コストの削減を行う
3. 購入品の価格見直しを行い経費と原価の削減を行う

キャリア形成

1. 事務スキルの向上を行う。
2. 接客スキルの向上を行う

令和7年度 デイサービスセンター漣 事業計画（案）

1. 活動方針

五條市の高齢者人口が減少傾向で推移している中、75歳以上人口は令和12年ごろまで増加傾向が続く一方、65歳～74歳人口は継続して減少していく予測である。また、後期高齢者人口の比率が増加するにつれ、今後は要支援1～2、要介護1は低下が見込まれ、要支援2が横ばい、要介護3～5は上昇が見込まれている。現在デイサービスのご利用者の平均介護度は1.5であり要介護度が高くなれば施設に入居したり医療機関へ入院したりする方が多くなる事を意味する。年を取る事を遅らせる事は出来ないが、要介護度の重度化を遅らせる事は可能であると考え。以前は、地域のコミュニティが盛んであった地域でもコロナウイルスで地域との関わりが遮断された。一度遮断された地域関係を再構築するのは容易ではない。この事がきっかけで孤立している高齢者も多いと推測する。外出する機会も少なくなり自宅内で完結してしまう生活をしているご利用者も多い。人との関りも少なく運動する機会も乏しくなってしまうと、認知機能の低下や筋力の低下を招いてしまう。地域で生活する高齢者の現状を打開するため、まず居場所となれる場所作りが早急に求められると同時に、今後のデイサービスの受け入れ態勢の見直しをする時期に来ている。在宅サービスを提供する事業所として、一人でも多くの在宅生活者をサポートできるように事業所間でコミュニケーションを密に取り、より充実した生活になるように尽力していきたい。

2. 部門目標

- ① 稼働率の維持・向上
- ② 食中毒防止
- ③ 感染症発症及び蔓延を予防

3. 部署目標

- ①-1 内部監査ならびに委託先の監査・評価
 - ・定期的な内部監査を実施し、業務の見直し・改善を行うこととする。
 - ・業務委託先については監査を実施し、業務の評価・見直し・改善を行うこととする。
- ①-2 計画に基づいた営業活動の実施
 - ・毎月月末に各介護支援事業所に営業活動を行い、稼働率の向上を目指す。

① 定期的な衛生面の見直し（内部監査の実施）

- ・3か月ごとに衛生面の見直しとして、内部監査を実施する。対象としてフロア内のキッチンと野原ダイニングを交互に行うこととする。

② 感染症対策の継続的な実施

- ・嘔吐物処理研修を定期的の実施し、迅速な対応手順の精査や感染症や食中毒による影響やリスクについての検討を行う。またフロア以外でのケースも想定されるため、各場面に応じた処理方法を実施、最小限のリスクで対応できるようにする。
- ・パワーポイントを使用したご利用者向けの健康教室の実施。ご利用者への啓発を行いつつ感染症のリスク軽減の機会を図ることとする。

<各ケース想定嘔吐物処理研修計画>

- ・7月 緊急時対応研修：嘔吐処理（フロア編）
- ・9月 緊急時対応研修：嘔吐処理（車内編）
- ・1月 緊急時対応研修：嘔吐処理（入浴編）

<健康教室>

- ・5月…防災（自然災害と備えについて）
- ・6月…脱水症状
- ・8月…食中毒
- ・10月…インフルエンザ
- ・12月…ノロウイルス
- ・2月…口腔ケア

<職員研修>

- ・5月…感染症
- ・11月…災害と感染症

令和7年度 ケアプランセンター水面 事業計画（案）

1. 近況報告

現在、高齢世帯、子ども世帯の就労、貧困家庭、身寄りのない方など、複雑な社会構造のなかで、要介助者を支援する際、要介護者のみへの支援だけでは問題を解決することが困難になってきている。また介護が必要な状態にあるにもかかわらず、拒否があったり、過度なサービスを求めたりとご本人、ご家族への介入の難しさも感じられる。

2025年問題に突入し施設への入所が困難になり、より在宅での生活が推奨されることが考えられる。在宅での暮らしがご本人、ご家族にとって良いものとなるよう、いっそう医療と介護、地域との連携が必要となってくる。私たち介護支援専門員にもより質の高いスキルが求められる。業務の適正化、効率化を行いながら質の高いサービスが提供できるよう研鑽していきたい。

2. 部門目標

①稼働率の維持・向上

- ・他部署との連携を密にし、ニーズにあった、サービスの提供を行う。
- ・SNS等の活用や五條市周辺など広範囲に広報し、顧客獲得を目指す。
- ・研修や勉強会を行い、質の高いサービスを提供し、顧客の満足度を増す。
- ・スポーツジムmiracleとのコラボ企画“enjoyclub”の参加者を増やし、スポーツジムmiracle、澤の街、野原ダイニング引いては祥水園グループ全体を広範囲に広報する。

②食中毒防止

デイサービスの検食や内部監査に参加しチェックする。在宅で不衛生など衛生管理が困難なご利用者は、必要なサービスを調整する。

③感染症発症及び蔓延を予防

感染症に関する情報は、常に気を配り各部署との連携を図りながら感染症予防に努める。職員は感染予防の研修に参加し、知識、意識を高め、ご利用者、ご家族に伝達していく。

3. その他

○営業計画・・・スポーツジムmiracleとコラボ企画“エンジョイクラブ”継続。

※50.60歳代をターゲットにした運動イベント。

※いろいろなキャンペーンなどを開催し参加者を増やす。

（現在は、ピラティス無料体験キャンペーン実施中）

（澤の街のスウィーツをプレゼントし、澤の街に足を運んでもらう）

市内外の人が集まる場所への営業。（チラシを置いてもらう）

○特定事業所加算取得

- 利用者に関する情報又は、サービスを提供するに当たっての留意事項に係る伝達等を、目的とした会議を定期的に行う。
- 当該指定居宅介護支援事業所、介護支援専門員の計画的な研修実施。
- 地域包括支援センター等が実施する事例検討会に参加している事。
- 他の法人が運営する指定居宅事業所と共同で事例検討会、研修会議等の実施。
- 青・赤・緑本の勉強会実施。

○経費の徹底的な削減・効率化、改善方法を考える。時間内に業務を終える意識づけを行う。
備品などの徹底管理を行う。

令和7年度 ヘルパーステーション 事業計画（案）

令和6年度は、コロナウイルスが5類に移行され訪問への影響は殆どなかった。新規依頼、利用者人数は夏季・冬季は疾病の発症率も高くなり減少傾向にある。もう一つの原因は介護報酬改定があり収入が減少したこと、利用者の金銭的な困窮に伴うサービスの使い減らし、要介護認定の利用者の在宅介護率の減少（施設入所・疾病による長期入院からの療養型への入院）が考えられる。

サービス提供責任者1名配置の現状では、40名/月の受入れが上限であり介護度の低い利用者の利用が多数であり収入も右肩下がりというのが現状である。

登録ヘルパーの増員について、退職者・兼任者の異動があった為、ハローワーク等に募集の依頼・職員自らの声掛け勧誘をしているが、面接・採用に至っていないのが現状である。

所得制限のある職員について時間調整・勤務時間が今秋以降所得切迫する予想の為、サ責も自ら訪問を実施しているが、訪問に時間を要すると事務処理まで業務が追い付いていないのが現状としてあるのが課題で残る。出来る範囲で時間を作るようにし、残業しなくていい様心がける。

既存利用者については担当ケアマネージャーとの連携を図り、利用者の心身状態を把握し支援内容の見直しを行い新たなサービス追加と、波及に繋げられるよう積極的に取り組み、自費サービスにおいても些細な事と思うことなく取り組んでいく。人員確保には時間を要する為令和7年度の予算については前年度比より下降修正にて予算を立てさせていただきます。

・部門目標

- ① 稼働率の維持・向上
- ② 食中毒防止
- ③ 感染症発症及び蔓延の予防

・部署目標

- ① 通院介助や外出介護保険外での自費サービスをサービス提供責任者が中心に回り増収を図る。訪問業務は、サ責・登録ヘルパーで円滑に回れるように訪問時間の調整を行うがサービス提供責任者の事務処理業務が滞りなく行なえるように配分する。
- ② 調理前の手指洗淨、消毒、マスクの着用の徹底。調理器具の洗淨・消毒・食材のチェック
ご利用者の手指洗淨・食毒を促す。
- ③ 訪問前の手指洗淨・消毒・うがいの徹底。他施設への訪問対応については必要に応じてN95マスクの着用・フェイスシールドの着用等他施設の対応に順次従う。
ご利用者の体調確認、心身状態、環境面の観察も強化し感染症対策を十分に行い蔓延・症状悪化を防止する。感染症の知識を今一度幅広く得る研修の実施や外部研修の積極的な参加・資料配布を行い注意喚起する。

令和7年度 軽費老人ホーム月街事業計画（案）

1. 軽費品質方針

- (1)社会・地域・法人内部署と協調し、福祉サービス活動を支援する。
- (2)ご利用者が尊厳を持ち、自立した心豊かな生活ができるように支援する。
- (3)生活支援に関する技術と知識を高め、業務の継続的改善を行う。
- (4)リスクマネジメント行動指針に鑑み、ご利用者の安心・安全を支援する。

2. 軽費近況報告

・有料老人ホーム、ケアハウス等が増えている中、物価高、増税等により入居が難しくなっている方が、少しずつ増えていると聞く。軽費老人ホームの重要性を感じる事が、年々強くなってきていると同時に、安定した経営を考えなければならないと思っている。五條市は、高齢化率は高くなっているが、高齢者の人口は減ってきている。その中でも五條市の方々にアプローチし続け、軽費を紹介していただけることが増えてきている。また、市外にも目を向ける機会を多くしていたからか、相談していただけることが増え、繋がりが少しずつ広がってきている。今後も相談を待つだけではなく、自ら動いていくことを継続し、繋がりを大切にしていきたいと思っている。

軽費で過ごしているご利用者は、自立されているので、ご自身で完結されている事が多くありますが、軽費だからこそ、出来る事を職員と共に考え続けていきたいと思っている。時代の変化が早くなっていく中、軽費として変わらないものを大切にしつつも、変えていかなければいけないことに目を向け、見直す力、改善する力、また新しいものを生み出す力をつけていく。

3. 各部署品質目標

1) 事務部門

相談員品質目標

品質目標

- 1.地域との連携を行う。
- 2.入居数の高水準維持。

事務員品質目標

品質目標

- 1.月次決算のタイムリーな情報共有
- 2.事務所内の継続的業務改善

2) 生活支援部門

生活支援員品質目標

品質目標

1. 地域への貢献
2. 各部署の職員と連携し月1回のイベント実施

3) 医療部門

看護師品質管理

品質目標

1. ご利用者の身体の自立を促進し健康長寿の構築を行う
2. 職員の医療面の知識と技術の向上

4) 給食部門

栄養士品質目標

品質目標

1. 食のイベントの実施
2. 畑で野菜作り
3. 厨房倉庫内の備品整理

4. 年間計画

4月	生誕祭、お花見
5月	防災訓練
6月	バーベキュー
7月	七夕、きゅうり加持
8月	盆供養、夏祭り
9月	長寿式、彼岸法要
10月	運動会
11月	防災訓練
12月	紅白歌合戦、忘年会、餅つき
1月	書初め、新年会、寒行
2月	開園記念式典、節分
3月	ひなまつり、彼岸法要

令和7年度 グループホーム慈泉庵事業計画（案）

社会福祉法人 祥水園 法人理念

「してやるのではなく、させていただくのです。」

1. 慈泉庵 運営方針

- ①私たちは、ご利用者が住み慣れた地域で心豊かに過ごせるように支援します。
- ②私たちは、ご利用者が尊厳を保持し、生きがいを持った生活を支援します。
- ③私たちは、絶えず自己研鑽に励み、ご利用者に安心・安全な介護を提供します。

2. 処遇方針

令和7年度は外出、行事等増やしたいと思っている。ご利用者とお話しすると美味しい物食べに行きたい。温泉に行きたい、墓参りに行きたいなどたくさん声上がる。その声を聞いた職員は願いを叶えるために、考え行動する。考え行動する事によって職員の出来る事が増え、育成にも繋がっていく。ご利用者はもちろん、ご家族も巻き込み、日常のやりたいを形にできる環境づくりや生きがい作りを行っていく流れを慈泉庵でもつくり、ご利用者とご家族が慈泉庵で長く楽しく過ごしていただけるように積極的に動いていく。

慈泉庵は五條市の方の入居なので、稼働を上げる難しさはあるが、出来る事はたくさんある。SNSの活用、地域の行事に参加、五條市事業所との連携など営業もしていかなければならない。

職員全体での様々な専門的知識・技術を習得しご利用者の健康維持と・向上を図りつつ、職員の特技や強みを活かした介護を考え、実践できる体制づくりを行い、ご利用者も職員も活気ある環境・職場づくりを行っていく。

3.品質目標

品質目標

- ①事業者外・地域を巻き込んだ個別支援の実践
- ②認知症の啓発活動・広報活動の拡充
- ③地域の認知症カフェの開設

3.年間計画（法人・慈泉庵行事）

4月	生誕祭、お花見
5月	防災訓練
6月	バーベキュー
7月	七夕、きゅうり加持
8月	盆供養、夏祭り
9月	長寿式、彼岸法要
10月	運動会
11月	防災訓練

12月	紅白歌合戦、忘年会、餅つき
1月	書初め、新年会、寒行
2月	開園記念式典、節分
3月	ひなまつり、彼岸法要

※誕生日会のご利用者の誕生日当日に実施予定

※上記以外の食事等に関するイベントを月2回程度実施計画する

5.研修計画

- ①認知症介護実践者研修 1名
- ②認知症介護リーダー研修 1名
- ③その他介護知識・技術に関する研修 都度

令和7年度 公益事業部 事業計画（案）

祥水園野原西 village の意義、「地域共生」を目的とし、地域住民の方やご利用者、ご利用者のご家族、職員が交流を生み、暮らしに活力を与え、生きがいや癒しを感じる事が出来るサービス提供に努める。法人内部署と連携、協調しながら公益事業の運営を行う。
当園側からのアプローチを強化し、本年度計画および下記目標達成に各部署努める。

【野原ダイニング】

目標

1. 野原ダイニング健全経営
 - ・顧客ニーズの把握とアプローチ
野原ダイニング顧客へのアンケートを実施
インスタ・ブログでのアンケートのフィードバック
販促チラシの新規作成・配布
 - ・デジタルマーケティングの活用
ブログでの販促と毎月の献立表の発信
インスタでの情報発信（週1回以上）
 - ・人員の確保とスキル向上
教育方法やオペレーションの改善、業務改善を行う
柔軟な勤務体制で人員を確保できるようにする
事務作業の簡略化
2. 物価高騰に対するコスト削減
 - ・食材の見直し（業者の変更・代替案の検討）
 - ・適正在庫の管理
 - ・シフト見直しによる業務の軽減
3. 厨房業務の効率化
 - ・作業工程を見直し、削減・簡便化できるところを変更して効率化を図る
 - ・業務を細分化し、厨房職員・配達員での業務の振分け調整を行う

【FM 五條】

目標

1. 防災・減災情報の発信、災害時の情報発信による地域貢献
2. 黒字化（設備機械更新のための積立金の確保）
3. 地域イベントへの参加、収録、放送

【スポーツジム Miracle】

目標

1. 会員の再入会・新入会の正確・迅速な手続きの実施
2. 健全運営、広報活動から事業収入予算の達成
3. 他の事業所からの利用者の入会増加に伴い、器具説明、メニューのフォローの実施強化

【リラクゼーションスペース JADE】

目標

1. ご利用者、職員の安寧の為健全な運営を行う
2. ご利用者、職員利用の増加

令和7年度 阪合部 CLASS

こども第三の居場所『阪合部 CLASS』事業計画(案)

法人理念 「 してやるのではなく、させていただくのです 」

【現状報告】

令和1年に「地域の福祉のために使ってほしい…」そんな想いを形にするため、祥水園は阪合部にある古民家をいただいた。その古民家の名前を「阪合部 CLASS」とし、令和4年より地域へのイベントや、こども園との活動、意見交換会等、多くの活動を行ってきた。昨年度には、日本財団の「こども第三の居場所」事業の助成金が採択され、令和7年2月より工事を行い、令和7年7月に完成し、今年度秋期に子ども第3の居場所として事業開設予定である。単なる子どもの居場所だけではなく、地域の方々の力を集めながら、様々な社会経験ができるような居場所を創り、五條市で暮らせてよかったと想えるように事業を開始させる。

【今年度事業計画】

① 事業開始までの進捗管理と定員15名の利用者の確保

- ・日本財団への助成金の申請や完了報告等、必要手続きを滞りなく実施する
- ・定員15名の確保に向け、各学校や学童、行政機関への広報活動と協力体制の構築
- ・地域住民や地域企業に対して広報を行い、認知を拡大し、口コミをつくる

② 法人内での理解の促進と他部署間との協働

- ・相互で祥水園らしさを共有し、イベントや活動を展開する
- ・法人内で協働し、相互作用を生みながら祥水園に関わる人の力を最大化する
- ・それぞれの部門、部署の課題を客観的に捉え、互いに持つ力で解決策を見つけていく

③ 地域課題の解決に対するチームづくり

- ・福祉だけでなく、広く五條市における地域課題を把握し、解決策の提案を行う
- ・行政だけでなく学校関係やインフォーマルな人とのつながりを創り、つないでいく
- ・定期的に意見交換会・情報交換会を行い、次の行動へとつながる機会を創る